

がんの早期発見・早期治療～検診を受けましょう！



皆さんは毎年がん検診を受けていますか？
今ではがんに罹る人は2人に1人、がんで死ぬ人は3人に1人も言われています。
がんで死なないためには早期発見、早期治療が必要です。ではどのようにしたら良いのでしょうか？

乳がん検診

乳がんは日本人女性の12人に1人が発症

乳がんはライフスタイルの変化から近年、日本の女性にも急増しており、その罹患数は8万9千人を超え、発症率は12人に1人とされています。乳がんは20代から発症を認め、40代後半から50代前半でピークを迎えます。他のがんと比較すると中高年層の女性が罹患するがんといえます。

●乳がん検診の種類

1. 視触診

医師が直接手で乳房にふれ、しこりを触診する方法。検診などで、マンモグラフィと併用で用いられます。

2. マンモグラフィ検診

乳房専用のレントゲン検査。圧迫版で乳房をはさみ、薄く引き延ばして撮影します。乳がんの初期症状である微細な石灰化を画像としてとらえられます。

3. 超音波検診(エコー)

超音波を出す「プローブ」と呼ばれるセンサーをあて、はねかえってくる音波を画像化して、乳房内部の様子を映し出します。触診では分からない数ミリ単位のしこりを発見できます。

マンモグラフィ検診の利点・欠点

利点	<ul style="list-style-type: none"> 手で触れることのできないしこりを発見できる 石灰化だけの早期の段階での腫瘍を見つけることができる 以前に撮影したレントゲン写真との比較が容易
欠点	<ul style="list-style-type: none"> 痛み、被爆(被爆量は少ない)の問題^(※) 妊娠中、授乳中の女性は受診できない 若い女性ではがん(しこりや石灰化)と乳腺の区別が付きにくい

超音波検診(エコー)の利点・欠点

利点	<ul style="list-style-type: none"> 被爆の心配がない 乳腺が発達している若い女性でも腫瘍を発見できる リアルタイムで検査結果を見ることができる
欠点	<ul style="list-style-type: none"> 石灰化が見つけにくい 検査を行う医師、技師の検査能力に依存する 全体像を記録として残すことが難しい

※マンモグラフィの被爆量：1枚の撮影で浴びるX線の量は、1年間に知らず知らず浴びている自然放射線量の1/6～1/8。1回の検査で受ける放射線量は、東京～ニューヨーク間の飛行機旅行で浴びる宇宙線とほぼ同じといわれており、全く問題ありません。

●乳がん検診の勧め

2006年度に、「40歳以上の女性に対し、2年に1度、視触診及びマンモグラフィ併用検診を行う」指針が厚生労働省より通知されました。よって、ほとんどの自治体は、2年に1度の受診を推奨しています。加茂市においても40才以上の女性を対象に2年に1度のマンモグラフィ検診を実施しております。

年代別の推奨検診

50歳以上	マンモグラフィ(1～2年に1回)のみ
40歳代	マンモグラフィ(1～2年に1回)のみ またはマンモグラフィ(1～2年に1回)のみ + 超音波検診(毎年)
30歳代	超音波検診(毎年)
20歳代	必要ありません

近親者(親子、姉妹)に乳がんの方がいる場合など

超音波検診(毎年)

+

マンモグラフィ(毎年)

乳がんにかかる人は30代から増加し始めますので、各年齢に適した検査法を選択して、乳がん検診を積極的に受診することと、また、検査は1度だけで終了ではなく、続けることが重要です。

胃がんで死なないためには？

がん死亡数第3位！

胃がんに罹る人は男性で1位、女性で3位。胃がんで死ぬ人は男性で2位、女性で4位です。この様に日本人ではリスクの高いがんです。

症状では判らない！

では胃がんで死なないためには、どのようにしたら良いのでしょうか。何らかの症状が出てからでは残念ながら手遅れのことがあります。

検診を受けましょう！

早期発見には胃がん検診（市で行なっているバリウム検査）やこれに代わる血液で行う検査（ABC検診やリスク検診とも言われ一部自治体や企業などで行われています）、今後は内視鏡による検診も行われる予定です。これらの検査を症状がなくても1～2年に1回受けていれば早期に発見できます。

胃がんで死なないためには！

早く見つければ、内視鏡的治療（開腹手術が必要なく、苦痛、侵襲も少ない）ができ、もう少し進行した状態でも手術で摘出してしまえば、死ぬことはありません。

ピロリ菌について

ピロリ菌は子供の頃に口から感染して、胃に住み着き悪さをして、ピロリ菌のいない人に比べ5倍以上がんを発生させるとも言われています。抗生物質などで菌を駆除すると胃がんの発生を3分の1以下に減らせます。

大腸がんで死なないためには？

がん死亡数第2位！

大腸がんに罹る人は男性第3位、女性第2位。大腸がんで死ぬ人は男性第3位、女性第1位です。大腸がんで死ぬリスクは年々増加しています。

症状では判らない！

大腸がんに特有な症状はありません。症状が出た頃にはがんが進行して手遅れのことでも時々あります。

検診を受けましょう！

大腸がん検診（便潜血反応検査、加茂市では11月頃）を毎年受けていれば、受けていない人に比べ死亡率が1/5～2/5に減るとも言われています。必ず受けて下さい。また血便があった人と家系内に大腸がんがある人は、定期的に大腸内視鏡検査を受けて下さい。

大腸がんで死なないためには！

早期のうちに発見すれば、内視鏡検査で治療が終了する場合があります。もう少し進行しても転移をしていない時期であれば手術で治り、普通に生活ができます。早期発見が大事です。